

滋賀県、中央
は琵琶湖

「核の脅し」で対抗する防衛

天皇は君主・困民を臣民―教育勅語

7月投開票の参議院選において議席を伸ばした「参政党」の存在がある。そして国民にむかつて展開をされた候補者の発言は忘れられることはできない。

その一つに「核武装が最も安上がり」という塩入清香氏と「さや候補」の発言がある。つまり自立した防衛に言及。さらに「日本の防衛力に自国のためにどれだけ活用できる兵器があるのか」というのを考えた時、あの北朝鮮ですらも核兵器を保有する。そして一応国際社会の中でトランプ大統領と話ができるくらいまでには行くわけですよ。交渉ができるということ。そして防衛のために核保有する「メリット」を挙げ「そういう状況までいくということを考えて」と、核武装が最も安上がりであります」という発言であった。当時の新聞各社の情勢調査では優勢が伝えられ当選をしたさや氏だが、彼女の核保有に対する「持論」は今なお波紋を呼んでいる。

(7月18日・「女性自身」)

対して広島市の松井一実市長は8月1日の定例会見で「決して安くない。的外れだ」と批判した。松井市長は核兵器保有について、「維持のために多くの資材や研究者が必要だ」と指摘。核兵器を持つ国々が保有量を減らせば「そのお金をそれぞれの国家の福祉予算に回せる」と話した。また「一過性の脅しとして何らかの効果はあるかもしれないが、長期の関係をうまく構成するためにには機能せず、混乱を生じる可能性さえある。

「知恵を使って暴力から逃れるようにすることが正しいのではないかと、言い続けたい」とも語った。

(8月1日・朝日新聞)

そして見逃すことのできないものに、日本の自衛隊と米軍が昨年実施した「台湾有事」想定の高レベルの机上演習がある。中国が核兵器の使用を示唆する発言をしたとの設定に、自衛隊が米軍に「核の脅し」で対抗するよう再三求めたことが27日複数の政府関係者への取材で分かった。

米側は最終的に応じ、日米の外務・防衛当局だけでなく、制服組も核が使われる可能性を念頭に置いていることが判明した。

米軍の行為は同盟国への攻撃に対し、核兵器などで報復する意思を示して敵国に軍事行動を思いとどまらせる概念「拡大抑止」に基づくものである。唯一戦争被爆国として核廃絶を訴える日本が、有事には核による威嚇もいとわず米中の緊張激化を助長させる恐れがあることが明らかにになった。

(2025年7月27日・KYODO)

さらに参政党が教育勅語の尊重を掲げていることについて、阿部俊子文部科学相は閣議後記者会見で「憲法や教育基本法に反する形で教育勅語を用いることは許されない」と述べている。教育勅語は、1890年明治天皇が大日本帝国憲法下で「臣民」である国民に守るべき徳目を説いた言葉として発布され、国民教育の精神的支柱として戦前

の学校では朗読が強制された。敗戦後主権在民を規定する新憲法が公布されたことを受け「神話的国体観に基づき、基本的人権を損なう」として衆院で排除、参院で失効確認の決議が採択された。

しかし「核保有」にしても「教育勅語」にしても、今初めて唱えられたものではない事を記憶し確認をしておきたい。

その一つが安倍元首相の発言である。アメリカの核兵器を同盟国で共有する「核共有」について、自民党の安倍元総理大臣は、ウクライナが核共有を実施しているNATO(北大西洋条約機構)に加盟していれば、ロシアの侵攻はなかったのではないかと指摘したうえで、日本も議論を進める必要があると強調した。そして3日の派閥の会合で、アメリカの核兵器を同盟国で共有して運用する「核共有」について、NATOに加盟している複数の国で実施されているとして「ウクライナがNATOに入ることができていければロシアによる侵攻はおそらくなかっただろう」と指摘した。

(2022年3月3日 15時23分・NHK)

そして「教育勅語」である。教育勅語を巡っては2017年3月当時の安倍晋三政権が「憲法や教育基本法などに反しないような形で教材として用いることまでは否定されることではない」との見解を含む答弁書を閣議決定。さらに2018年には当時、文科相だった柴山昌彦衆院議員が「道徳に使える」という意味で普遍性がある」などと述べ批判を浴びた。さらに当時の前川喜平・文部科学省初等中等教育局長が「教育勅語の中には今日でも通用するような内容も含まれていて、これらの点に着目して学校で活用するということは考えられる」と答弁。衆院文部科学委員会でも追及され

でも「教育勅語に列挙された徳目の中には今日でも通用するような内容も含まれており、その内容に着目して活用するということはありません」と見解を変えなかった。

(2019年7月16日・産経新聞)

そして政府は、19年3月「憲法や教育基本法等に反しないような形で教育勅語を教材として用いることまでは否定されることはないと考えている」とする答弁書を閣議決定している。

(2019年7月31日・産経新聞)

そして今、参議院選挙の中で再び持ち出された参政党の候補者の訴えが、国民の中に深く浸透をし始めたことに強い危機感を持たなければならぬ。

石破茂首相は8月4日の衆院予算委員会で、立憲民主党の野田佳彦代表から、戦後80年に合わせた何らかのメッセージを出すよう求められたのに対し「形式はともかくとして、風化を避けるため、戦争を二度と起こさないための発信は、私は必要と思っている」と明言した。人類史のなかで戦争による死者数がかつても多かったのが第一次世界大戦である。7月21日石破首相は「大戦における日本軍の死者の6割が病死や餓死」であったと述べ、きちんと過去の直視をして、そのことを忘れてはならないのだと語っている。そして沖繩、東京大空襲をはじめ、広島、長崎における原爆投下による民間人の犠牲は80万人と言われる愚かな戦争を起こした、この事実を私たちは忘れてはならない。

ニユース8月号で提起をしました「だまされた者の罪は、ただ単にだまされたという事実そのものの中にあるのではなく・・・」、と訴えた伊丹万作監督の言葉を改めてかみしめたいと思う。

寄稿

まずは食料の自給率を・・・。

(「まめの婆ば」郡山)

終戦80年と言われる今年の8月でした。各地で追悼の式、あるいは平和を祈願しての集会などが開かれた模様です。

私にとっても8月と言う月は重たい記憶が蘇ってくる月ではありません。

昭和20年。

8歳の私は幼いながら愛国少年少女の一人だったのです。居住地にも空襲があつて街の多くの人々が爆死しました。

爆撃を受けても、生活必需品が手に入らなくなつてしまつても、〈『神国日本』は必ず勝つ〉そう信じていた8歳の私。

学校でもそのように教わつておりました。

8月15日、「無条件降伏」と言う言葉を聞いた時、初めは意味がわからなかつたのですが、兄に教えてもらつて日本が負けたことを知りました。

急に、鬼畜米英の兵隊が襲ってくるのではないかと、この恐れに心身が捉えられ、「山奥に逃げよう」と、母に泣きながら訴えたのでした。

そうした私を、母は、ただ抱きしめていてくれたのです。

その後、アメリカのB29による爆撃の怖さはなくなりましたが、来る日も来る日も食べ物がなくて、いつもお腹を空かせていたことは忘れることができません。

女子挺身隊で病を得、床に臥せていた姉に、母がなかなか手に入らない鶏卵を幾つか農家から分けてもらつてきました。少しでも痩せ衰えた姉に滋養を与えたかつたからです。

その卵が食べたくて、「私も病気になるて卵が食べたい」と駄々をこねて母を悲しませた私です。

飢餓は人間を餓鬼にします。

今年の夏は全国的な水不足の様相でした。

宮城県の鳴子ダムは貯水率が0%まで下がってしまったとか。また米どころの田んぼが水不足でひび割れているニユースも目にしました。

農家の方々の悲痛な叫びにも似た声を聞きますと、なんとも切なくこれからどうなっていくのだろう、そんな不安に襲われます。

今、世界は地球規模の温暖化にさらされています。日本の食料自給率はわずか38%とか。農作物が酷暑で実をもたらさなくなつてしまつたら私たちのこの国はどうなつてしまふのでしょうか。穀物生産国が温暖化で食糧危機に陥り自国優先に舵を切れば、食料の輸入など覚束なくなることは必至です。

戦争だけでなく、災害その他の有事が起れば餓死者が大量に出してしまうのではないのでしょうか。

日本の安全保障。

まずは食料の自給率を高めることかな。

88年間生きてきた私は、劣化の一端をたどる脳細胞ではありますが、その様に考えています。



こんなにも広い日本の耕作放棄農地

日本の耕地面積は全体で435万haで、農業人口は168万人なので、一人当たり約2.6haの田畑を持っています。その多くは一人で維持しています。また耕作放棄土地は国内農地全体の1割、滋賀県の面積に匹敵する約40万ヘクタールの広さです。

(事務局)

警察官や金融機関からの電話

「暗証番号は聞きませんので、
メモに暗証番号を書いてください」
近くに警察官(職員)がいますので、
すぐに向かわせます。

そして「電話詐欺」の手口は日々巧妙化をしています。

県警では詐欺の被害に遭わないよう

次のような助言をしています。

- ▲ 在宅中でも「常時留守番電話設定」にする。
- ▲ 一人で判断しない。
- ▲ 振り込み、または引出しをする前に必ず家族や警察に相談する。

▲ 電話、メール、はがきで「お金」や「キャッシュカード」の話が出たら、それは詐欺ととらえる。

また市役所(社会保険事務所)職員を

名乗る電話があります。

▲「〇市役所の〇と申します。貴方の〇年分医療費の還付金が〇万円あります。期限が過ぎても手続きされなかつたのでご連絡しました。という手合いの電話です。

このようなことはメールの受信にもあります。

▲関係のない金融機関、総務庁、国税庁、電電公社などの名前を使つての手続きのメールです。

とりわけ官庁、あるいは法人からの案内は書類となつてきます。電話やメールでの通知はしません。

注意をしましょう。



報告・提言のひろば



■ 8月号の伊丹万作監督の言葉は心にささりました。平和の想いを持っていても、ガザの人たちの飢餓をどうすることもできません。被爆国日本としても、もつと国際社会で発言すべきです。「頑固に平和」の社民党や世論を大きくしたいです。

■ メールとニュース拝見しました。社民党と共産党は70歳以上の人々に支えられている政党であることが明確になった選挙でした。党员も投票者も高齢者。ラサール石井さんが出なければおそらく0議席だったのではないのでしょうか。共産党は志位独裁を生む民主集中制を放棄しない限り、次の選挙では200万を切ると思います。わたしの家では選挙区では吉良、比例では社民党に入れました。総選挙になったときどうなるか。参政党を自民の右派が吸収して、自民党がオレンジになることをおそれます。石破に踏みとどまれという人はそれを危惧しているのでしょうか。いずれにしても大変な時代になりました。

■ 参議院選挙結果は、社民党にとっては現状維持となりましたが、参政党など新しい政党が一定の得票を取りました。私たちは「このことをもどのように評価をすればよいのでしょうか。しばらくの間皆さんで意見交換をしてはと思います。自公の過半数割れはどのように評価をすべきなのかもいろいろご意見があるのだろうと思います。わが社民党は現状維持となりましたが、ラサール石井さんの出馬がなかったらどうなっていたのでしょうか。少し時間をかけてみんなで総括議論をしてはどうでしょうか。改めて意見交換の機会を設けてはと提案します。ご検討をください。

■ こんにちは猛暑、酷暑の中8月号が届きました。今回の参議院選挙、何とか政党要件をクリアしました。共産党が大きく議席を減らしている中、よく踏みとどまったとの感想です。しかし、若者世代にはどんな言葉が通じるのかと悩まされています。「ミサイルより米を」「武器よりメシを」と訴えましたが、響かなかつたのでしょうか。時代は間違いなく右傾化しています。戦争へと進ませないためにも社民党は必要です。喜多方の現場で仲間と共に、諦めず、一踏ん張り二踏ん張り求められています。

■ いつもOB・Gニュース作成ありがとうございます。社民党も得票率20.6%で政党要件を確保しました。若い人への浸透が課題となつています。あきらめずがんばるしかありません。

■ 若者の層は「参政党」に流れたようです。いわゆるSNS戦術が功を奏した様で、選挙の有り方が我々の認識とは随分変わりました。小生は「参政党」は極右的と思つています。若い層には自民はダメだがメリハリのある発言をする参政党を指示した感じです。今週末は町内会の「夏祭り」が予定され一日狩り出されます。子供達も期待している様ですので頑張ります。

私の現役時代の仲間の多くは今故人となつていきます。また固定電話、あるいはネットによる被害が増大している実態の中で、電話をかけても「留守メッセージ」となるのが多くなつていきます。それだけではなくスマホへの移行が拡大をしています。個人名の電話帳も今は発行されていません。そのようになかで今まで行つてきた通話が困難となつていきます。昨年の衆議院選挙、そして今般の参議院選挙で旧友に呼びかける対話もできにくくなつていきます。加えて体力と免許の返納などに加え、この暑さです。そして「年齢別社民党」

の支持」が70代以上という「高齢者の党」となっています。難しいですが「若者」への軸足を持つ運動はとなりますが知恵をお貸しください。

■会津も酷暑が続いています。私の地区の田んぼは、阿賀川（大川）と只見川から揚水して田んぼに水を供給していますが、この酷暑ですべての田んぼ180ヘクタールに行き届かず、夜間揚水しています。しかし、電気料の高騰によって揚水を時間制限を実施している中での出来事で関係役員は四苦八苦の状態です。さて貴重な組合での活動実態の報告をいただきました。その通りだと思います。働く人がどう働いているのか、組合幹部は把握する必要があります。

■参議院選挙当日の予報は雨です。傘の用意は十分でしたか。つまり候補者の擁立の準備です。傘を借りる事で（ラサル石井氏を擁立）ずぶ濡れになることは免れました。（とりあえず、2%をクリアしました。）埼玉県連合は、候補者の公募で神奈川県「高井たまき」さんを選挙区に擁立しました。選挙でLINEグループを作って、情報を共有しました。候補者の画像や動画を選挙カーのスタッフからLINEグループに投稿して、責任者からX（旧ツイッター）に投稿していました。社民党のグループでのXの発信が少ない。ユーチューブもインスタはもつと少ない。選挙ではSNS戦略が議論されているのに、さみしい位です。良く2%をクリアしたものです。大椿ゆうこさんを当選させられなかったけれど、ラサル石井氏を擁立しねければ、2%はクリア出来なかったでしょう。

■とにかく、暑い、暑い毎日です。時々プールに行きますが7月は大会等で使えない日が多いです。足腰はプールではなかなか筋力がつけられな

いので少し別なことをしなくてはと思いつつも暑くて実行できません。社民党は苦戦のままです。何が大事なのかを伝える工夫が欲しいのかもしれない。人と人が気兼ねなく話せる社会と人間関係が必要だと考えます。

■お父さんの今の発言「NGだよ」。電話を終えた私に妻が声をかけた。それは「友人への電話の中で『暑いね、もう電気代なんて言っていられないよ。冷房つけっぱなしだ』という私の言葉に対してのものであった。妻が言うことには「あなたたちは夫婦共稼ぎの年金受給者だからそんなことを言っていられる。皆がそうではないことに気配りが必要だと思うよ」と言つのが、妻の前記の真意であった。今、政治家の失言問題が取りざたされている。発言の一つ一つに気配りは必要だということ。

■暑い毎日であるが、朝涼しい時にできるだけ歩くことにしている。精々1キロメートル程度であるが道々4・5人の方とすれ違ふ。見知らぬ相手であるが「おはようございます」との挨拶をする。日本の文化であり、習慣である。大事にしたいものである。しかし昨今、通りすがりの通行人が何の理由もなく殺傷されるという事件が多発している。悲しいことである。

■今回、神奈川県ではSNSでの運動に意識的に取り組まれましたが、これはSNSの扱いに慣れている少数人数での活動にとどまります。今後、展開していくには多くの課題がありますので、その点は総括でまとめたいと思っております。ただ今回、神奈川県で取り組んできた選挙運動の本体は、「選挙区候補と比例区候補が一体となった選挙運動」を目指して「がんばろう！社民党かながわ共同行動」という運動体を結成し、県

内の街宣行動を企画し、展開してきたことにあります。その行動を実際に担ってきたのは党員だけでなく、労組・市民団体のメンバーです。ターゲットは川崎・横浜・藤沢・茅ヶ崎・横須賀など、人が多く集まる県内の主要な駅頭で、車を使うのではなく「幟旗やポスター、トラメガなどを参加者がかついで電車で移動して、次々に駅頭で街頭宣伝を行っていく」というスタイルです。

■酷暑と一部地域では湯水が続いています。お変わりなくお過ごしでしょうか。暑さが尋常ではありませんが、郡山など福島中通りは東京よりも暑そうですが、最高気温が更新されたという今日はこちらも気温は38.8度まで上がりました。さすがにスーパーに買い物に行く気もせず日が暮れて夜8時に買い物に出ましたが、それでも33度以上という状態です。地球温暖化が引き返せない地点を超えて加速する一方でないことを祈るばかりです。話は違いますが、社会状況も数年前までは想像すらできなかったようなことが次々と起ります。SNS活用の選挙、ほとんど推し活の選挙、有権者の目先の利益に訴えるばかりで国の未来を語らない国政選挙、「自分第一」を公言して憚らない社会の気分、自国利益むき出しで国際秩序無視等々、10年程度でここまで既存の考えや秩序がガラッと変わってしまうのかと驚くばかりです。覚悟しておかなければと思うのは、気候も社会状況も当分の傾向は続くだろうということでしょうか。一度動き出した慣性は余程の変化がないと反転しないでしょう。

カンパ協力ありがとうございました。

読者から5000円のカンパがありました。またニュースの継続にむけた多くの励ましの投稿がありました。
(事務局)